

ななかまど

札幌市立中島中学校
学校通信 第2号
令和6年7月25日

「できる」を見る夏休みに

生徒支援部 高橋憲生

我が子が初めて笑ったとき、笑った！と大喜びしましたよね。我が子が初めて寝返りをうつことができたとき、手を叩いて喜びませんでしたか？そんな子どもが中学生になりました。子どもの成長にともなう自身を振り返ると、そう言えば、かけっこが遅いとか計算ができないなどと言って「できない」ことに目が向くようになっていませんか？他と比較してみんなと違うとか、みんなよりできないなどと思ってしまうのですよね。では、なぜ比較してしまうのでしょうか。それは私たちが、みんなと同じく、みんなで一斉にと育ってきたことが一つの原因だと思います。

日本人の、他を思いやる心や規律を重んじる態度は大切に、世界に誇るべきものです。しかし、これからは多様性の時代、個性尊重の時代です。価値観も性自認も幸福感も、みんなそれぞれです。ましてや少子化ですから、「みんな」として数えられる人の数が少ないのです。同じでありたいとするなら、その「みんな」は多数ではないのです。

これまでの日本の教育を否定するのではなく、そこに多様性と個性の尊重を大胆に加えたい。「できない」ではなく、他に得意な「できる」を見つけましょう。世の中には、九九ができないけどピアノが抜群に上手い方、読み書きができないけど演技が抜群に上手い方がいます。こうした方々について、「できない」部分に目を向ける必要がありますか？「ピアノが上手な方」、「演技が上手な方」で良いと思います。理科の授業で実験をするときは3～4名のグループで実施します。実験手順を理解してグループをリードする生徒、ガスバーナーを上手に操作する生徒、マッチの燃えさし入れの蓋を開けたり、濡れた雑巾を準備しておいたりするような気づかいのできる生徒、そんな生徒たちが上手に互いをサポートし合って実験を行っています。そこに「できない」はなく、あるのは一人一人の異なる「できる」です。

夏休みは、「勉強しなさい！（なんで勉強できないのだ）」、「片付けなさい！（なんで片付けられないのだろう）」…という言葉をご自身でぐっところえて、お子様の「できる」こと、「得意なこと」、「強み」を再確認しませんか。我が子についてご自身が「好きだな」と感じている部分、きっとそれがその子の強みだと思います。

長い夏休みは体を休めたり、普段できなかったことに挑戦したりして、有意義に過ごしてほしいです。一方でこうした長期休業が明ける時期には生徒の心において不安定さが増加する傾向にあります。変わった様子（食欲がない、笑顔が少ない等）があれば学校に相談してください。「夏休みの過ごし方について」という文書に電話相談窓口を一覧にしてありますので、そういった機関も利用することができます。中島中学校にかかわるすべての人が健康で、有意義に過ごされることを願っています。